

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601506		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホームひまわり2号館		
所在地	久留米市善導寺町飯田1393-9 (電話)		
自己評価作成日	令和4年2月2日	評価結果確定日	令和4年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

少しでもお元気に過ごして頂ける様に、経験豊かな看護師を中心に、スタッフの観察力向上にも力を入れ、常に医療との連携を図り、ご入居の皆さんの健康維持、異常の早期発見に努めています。医療法人のグループである特徴を活かし、PT、OTからのアドバイスを頂きながらリハビリ運動で機能維持、向上に取り組んでいます。さらに、グループホームの良さである、家庭的な温かさを感じて頂ける声かけ、安心できる介助で日々を支えると共に、コロナ禍ですが、その時々を季節を感じて頂ける工夫、行事でお楽しみの提供にも努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和4年2月24日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、田園に囲まれた住宅地に位置する1階建ての木造の建物である。リビングや廊下は広々としており、2ユニットは自由に行ききできる。同法人内に総合病院があり、医療との連携が図りやすい。近隣に介護施設や事業所があり、交流をしている。利用者が、自分の家で過ごすように、その人らしく、ゆったりと楽しく生活できるように支援している。職員と利用者の笑顔があふれ、今後が期待できる施設である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「地域とともに、地域の為に」事業所理念「常に感謝の気持ちを忘れずに楽しく支えあい、一歩前進を目指します」の理念の元、地域行事への積極参加、日頃からの挨拶の励行など行っています。	事業所独自の理念があり、法人の理念とともに事務所内に掲示している。法人の理念の中に、地域密着の視点が取り入れられている。ミーティングで理念の唱和を行い、理念を共有して実践に取り組んでいる。新人教育の研修でも理念について学んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この2年については、コロナ渦にあり、数回の清掃活動を除き、地域との交流の機会も殆どありませんでしたが、例年地域のお祭り、また事業所主催の夏祭り、その他行事への招待など交流を深めるようにしています。	コロナ禍前は近隣の事業所や地域の行事に参加し、地域と交流していた。現在はお宮の清掃活動で、地域の人に挨拶を交わす等、関わりを持っている。近所の方が介護相談に来られることもある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの介護についての相談、問い合わせを受け、認知症についての説明、各介護サービス内容、関連機関への紹介などを行っています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実質の推進会議の開催ができませんでしたが、事業報告書持参時などの際に当地区の直近の高齢者状況、問題点などについて情報を収集し、近隣に身近な存在を感じて頂けるように努めています。	コロナ禍のため、2か月に1回、運営推進会議のメンバーに、利用者やサービスの状況報告を書面で行い、意見を聴いている。その中で地域の情報を得たり、災害時の話が出ることもある。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営について不明の点がある場合、即、介護保険課へ連絡し、お尋ねすることでの確かな事業所運営に努めています。その他日頃より包括支援センター等へ伺い、空将状況を中心に現状報告すると共に連携に努めています。	日頃より市役所に、電話やメールで、質問・相談・連絡をしている。現在は、コロナ禍のため実施できていないが、キャラバンメイトとして関わることを検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員自ら入居者への対応の在り方について、人権への意識を持ち、身体拘束、虐待など絶対に行わない方針で日々ケアに取り組んでいます。さらにミーティング、ヒヤリハット報告、その他勉強会の場で常に自らを見返り、事業所全体でその意識を深めています。	玄関と居室は、施錠していない。玄関はチャイムがついている。職員は帰宅願望がある利用者の外出傾向を把握し、声かけや見守り等をしている。施錠以外の拘束はない。身体拘束の内部研修は年1回実施している。オンライン研修も検討している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に、虐待についても同様に研修などを通し、常に見返り、互いに声を掛け合いながら対応をしています。また常に職員自体の精神、身体面に配慮し、残業を極力なくし、精神面で安定して支援ができるように心掛けています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権を尊重する意識を常に持てるように、日頃から、「本人主体のケア」という事を考えて支援するようにミーティングを通し見返り確認しあっています。さらに本人の為に常により細やかな支援の在り方の制度などについても勉強会を通して、学ぶ機会を作っています。	権利擁護について、必要時に家族へ説明している。年1回、権利擁護についての内部研修を実施している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、本人だけでなく、ご家族も安心して頂けるように、内容について丁寧な説明を心掛け、納得してご利用頂ける様になっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会、入居料支払いの折にご本人の様子をお伝えすると共にご家族からのご希望等について意見を伺う様になっています。外部の方へは、主に運営推進会議、事業所便り等を通して事業所の現状（業績、ヒヤリハット・事故・行事等）報告しています。	日常的に、職員が利用者の要望を聴いている。食事のメニューに利用者が食べたいものを取り入れたり、昼寝の希望があれば居室で寝てもらっている。家族には、電話や来訪された時に利用者の状況報告を行い、要望等を確認している。便箋や封筒を持参するので、利用者が手紙を書くのを手伝ってほしい等の要望があり、対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は必ず、ミーティングを行い、通達徹底事項等連絡、勉強会を始め、施設内の諸問題、職員からの提案を受ける機会を設け、日々の業務反映できるようにしています。	月1回のミーティングのほか個別に職員の意見を聴いている。年2回管理者は人事考課の面談を実施している。業務内容や利用者の介護内容について意見が出ることが多く、休憩の時間や食事体制については、職員の意見を取り入れて決めている。清掃活動は職員から意見を受けて参加している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、またその都度の職員との面談を通し、各スタッフの状況を把握すると共に業務、職場環境に対しての具体的な思い、問題点についてざっくばらんに出してもらい、業務改善、働き方の改善に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	常に新しい戦力としての人材確保に努めていますが、状況は厳しく、就業の意欲があれば最優先しています。当事業所で心掛けている事として、チームケアを意識し、スタッフお互いが個々の良い点を認め、その違った個性を一つにしてのチーム作りをしています。（よかとこBOX）	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から外さないようにしている。定年は特に設定していない。職員の家庭の事情や休日の希望、資格所得希望がある時は、勤務時間帯等勤務について配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月開催のミーティングの際、各課題を設け勉強会を行っており、特に人権尊重については、身体拘束、虐待にもつながりかねない基本的な守るべきものとして全スタッフが認識を重めています。	利用者に対する人権を尊重するために、全職員は内部研修で人権について学ぶ機会がある。研修の資料は準備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度、法人のキャリア段位制度を活かし、現在を支える人材、次を担える人材育成に努めています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現実的には、このところのコロナの影響もあり、他事業所などとの交流は控えざるを得ない状況が続いていますが、現時点で3月よりグループ内人材交流が予定されています。例年では、グループホーム部会、地域の小部会など話し合いへ参加を地域連携の交流を行っています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	具体的に入居が近づいた段階で、ユニットリーダー、ケアマネ、管理者でご本人との直接面談を通し、事前に少しでも馴染みの関係作りに努めています。さらに、ご家族からの情報も含め、表出していない思い等の把握に努め、ご利用当初から安心感を持ってもらえる様に努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは、最も気にかかっている点（経済的負担、サービス内容、面会等の有無、今後重度化した場合など）に丁寧に説明、また殆どのご家族が感じる「入所」に対する罪悪感に共感し、入所後も家族の思いを尊重したケアに努める事でその思いを払拭、安心して頂ける様に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点でのご本人の思い、家族の考えなど話をよく聞かせて頂き、その中から直近の課題を把握し、さらに表出していないそれぞれの思いを拾い集め、ご利用当初から安心感を持ってもらえる様に努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの存在意義でもある共同生活という事を念頭に、ご本人の生活歴をよく把握し、今したいと思う事、出来る事を探し、継続、維持していく事が出来る様に支援しています。（例えば趣味が歌であれば、歌って頂くなど）		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所により、ご家族とご本人との隔たりを出来るだけ感じられない様に、常に面会時、電話、書面などを通じ、小さな事でも報告、相談を行い、ご本人の日頃の生活を豊かにするために連携し支えていく姿勢を示すように取り組んでいます。（現在は出来範囲での面会実施）		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会などで、親しい方と接する機会を設け、また状況が許す時は、外出レク等を通し、なじみの場所を身近に感じてもらえる機会を作っています。さらに持参の写真や昔のお話を聞く時間を作り、豊かな思い出、記憶の引き出しも努めています。	職員は、利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から随時聴いている。コロナ禍のため、家族・友人・教え子等が来所された際は、窓越しでの面会をしている。電話の支援をしたり、病院受診時に馴染みの場所を通って行く等、感染対策をしながら、利用者が馴染みの人や場所との関係が継続できるようにしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの個性を尊重し、出来るだけ幅広く交流出来る様に配慮を行っています。（同郷の方、同じ趣味の方、話好きの方などの席次に配慮）		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中培ったご本人、ご家族との信頼関係の下、何か不安、相談などがある場合は、喜んで対応させて頂いている。入院等により退所、重度化され、今後の行先などについての相談に乗らせて頂いています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が可能な方へは、しっかりとご本人の意向を伺い出来るだけその思いに沿ったプランの設定に心掛けています。困難な方について、ご家族や近い方々のお話しの中に思いを拾いプランに活かせるようにしています。	職員は利用者に寄り添い、思い出等の会話の中から本人の思いを汲み取るように努めている。また、家族や関係者から聞き取り、本人本位に話し合い、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を把握、ご家族、面会の方等の話の中からその方のこれまでの姿を想像出来るものを拾い集めプランに活かす様に努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身共に日々の変化の中に、出来なくなった事、まだ出来る事を観察し、出来ない思う事でもと決めつける事無く、時には行ってみてもらう事で、少しでも出来る事探しで、残存能力、可能性の幅を広げる様に対応しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者お一人お一人に担当を付け、その担当を中心に個人あったケア、生活を送って頂ける様に立案、カンファなどで、説明し、他職員の多くの目線での意見を集約、計画作りに活かしています。	利用者、家族との関わりの中で思いや意見を聴き、担当職員や関係者で意見交換やカンファレンス、モニタリングを行い、介護計画に反映させるようにしている。また、状態変化に応じて、柔軟かつ臨機応変に対応している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、報告で新たな視点でのケアの在り方を見出す機会とすると共に、行ってきたケアの見返り、情報の周知徹底の為に活かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍となり、面会もままならない状況の中ですが、毎月のご請求書と共に御本人の様子を簡単に書いたお便り、写真、そして現在iPadのFaceTimeを利用し、関東など遠隔地との対面の機会作りを行っております。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の元気の源である食材は、地域の3つの業者の毎日の配達により、また健康面はかかりつけ医の協力によって、保たれています。また、郵便は家族、時には自分の様子を伝える便りは大切なツールとして、大きな役目です。時折、地域の方からの声かけに笑顔もあり生活のハリにもなっています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に健康管理には力を入れ、かかりつけ医療機関への受診、訪問診療の際、何でも相談できるような関係作りに務め、ご本人の状態について詳細報告し、異常の早期発見、より安心して日々過ごせるように対応を行っています。	本人や家族の希望する医療が受けられるよう看護師や職員が付き添い、支援している。往診や受診の際の情報は、その都度家族と話し合い、共有している。必要に応じて認知症専門医に繋ぎ、適切な指示や助言をもらっている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職自身も常に健康管理の意識を持ち、いつもと違う様子があれば、すぐに看護師へ報告相談し、異常の早期発見、さらに早めの判断で医療へつなげる事で健康維持に努めています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より、ソーシャルワーカーとの情報交換を行っており、2週間に1度の施設間ミーティングに参加し、入院中の状態について把握する機会を作っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化した場合の対応について、丁寧に説明し同意を得る様にしています。さらに重度化により、入院退所とならざるを得ない場合についても、できる情報の提供を含め次サービスへのスムーズな移行が出来るように協力を行っています。	重度化対応に関する指針を作成し、医療との連携体制等、事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。利用者・家族の思いを大切に、介護職・看護師・医療機関で話し合いを行い、状態変化時には家族とその都度意思確認を行い、方針を共有し、対応し得る最善の支援を図っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に病状についての知識について看護師を中心に学び、観察力を磨き、また緊急時の初期対応について、マニュアルを基に勉強会などで繰り返し確認すると共に、事例をもとに検証し、万が一に備えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨今の災害多発の状況を考え、日頃より災害時の対応について、マニュアルに添い、学ぶ機会を持ち、防災研修、避難訓練を実施しています。また、地域の行事に参加しながら、交流を深めると共に、万が一の時の協力をお願い出来る関係作りに取り組んでいます。	消防署の協力を得て年1回の避難訓練を実施し、訓練後は参加メンバーで意見交換を行い、次回の訓練に活かすように取り組んでいる。飲料水は備蓄している。	避難訓練の実施は、年2回義務付けられているので、地域住民や消防署の協力を得て実施をお願いしたい。また、リネン庫に飲料水以外の非常用食料・物品等・備品などの適切な備蓄を揃えてほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の人権、プライバシー保護について、勉強会などを通し、認識を新たにしながら、ご入居者への尊敬の念を忘れず、一人一人の思いを尊重しながら対応を行う様に心掛けています。またトイレ、入浴等の場面では特にプライバシーに配慮して対応を行っています。	職員は勉強会に参加し、意識向上を図っている。事業所に理念を掲げ、利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮し、利用者への声掛けは人生の先輩として敬う姿勢や対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に意向について問いかける様な声かけを行う様に申し合わせています。出来る、出来ないは問わず、否定せず一度は受け入れ、話をしながら少しでも意思に沿った決定が出来る様に努めています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に生活の場であることを意識し、自宅であれば、それぞれの様な暮らしぶりであるかを想像しながら、出来るだけご本人にあったペースでの支援の提供を心掛けています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの意向に沿い、お化粧の時間、またその日の服装など、出来るだけご本人の選択の機会を設けるようにしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番のお楽しみであるであろう、食事は、検食を重ね、美味しく、食べやすい食事の提供に努めています。またコロナの前までは、お茶をついで頂く等して頂いていましたが、最近はタオルたたみ、包帯たたみ等のお手伝いをして頂いています。	旬の食材や新鮮な食材を用いて、利用者の好みのメニューを工夫し、手づくりに拘り美味しく・楽しい食事が出来るようにしている。また、行事の祝い膳やおやつを利用者と一緒に調理をしている。利用者の状態に応じて刻み食・ミキサー食を提供している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に食事摂取状態を職員間で把握し、食形態、摂取状況に応じて、声掛け促し、介助など支援を行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2回の口腔ケアの促し、義歯洗浄など実施を行い、常に口腔内が衛生的に保たれる様に支援をしています。日頃より痛み、臭いを観察、訪問歯科医へ報告し、健康維持を図っています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送り、ミーティング、カンファレンスなどを通し、各ご入居者の排泄パターンの把握、情報共有に努めると共に、それを基に、出来るだけ、トイレでの自然排泄が継続出来る様に努めています。	排泄チェック表を作成し、利用者が気持ち良くトイレでの排泄が出来るよう支援している。職員は利用者の羞恥心や不安な思いに配慮し、対応している。夜間帯も時間を見計らって誘導し、ほとんどの利用者がトイレでの排泄をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご入居者の身体状況に応じて、食事形態を考慮し、水分摂取の促し、排泄時の腹部マッサージ、日中の運動を行っています。また、排泄間隔によっては、主治医の助言をもとに、服薬等による排泄を促し、支障が無い様に取組んでいます。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴によって、爽快な気分を味わっていたとと共に、清潔保持の為、その日の状況に応じて入浴を実施する事もあります。また、時間的にもバイタルなど体調を見ながら実施、無理のない様に心掛けています。	入浴は週3回としているが、利用者の希望に合わせて柔軟に支援している。入浴を望まない利用者には無理強いせず、職員が言葉かけや対応の工夫している。利用者の好みの湯加減やお気に入りの入浴剤で入浴を満喫してもらっている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃より、一人ひとりの生活リズム、体調の日変化を把握し、昼食後、夕方の臥床時間を提供しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常日頃から、看護師を中心に、体調の変化には注視しており、特に服薬により少しでも変化がある場合には、看護師へ報告すると共に、早め早めに医療につなげ、主治医と相談の上対応する様にしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご入居者の生活歴を基に、レクリエーション内においていろいろと取組んでもらう中、興味のある事、楽しみ、今出来る事などを探りながらやりがいに繋げられる様にしています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この2年ほどは、コロナの関係で実際には、外出を控えています。しかし状況を見ながら、少人数でのドライブで車中からの花見学など行い、少しでも季節感を感じ、リフレッシュしてもら得る様に取り組んでいます。	四季折々の花見やドライブに出掛ける年間行事計画を作成しているが、コロナ禍で未実施となっている。病院受診時に季節等を感じられるように利用者の希望に応じて柔軟に外出を支援している。また、共有空間の長い廊下は、利用者の良い散歩コースになっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	このところは、コロナの影響により、買い物外出も出来ていませんが、感染拡大以前は、ドライブ合わせ、買い物レクを実施、ご自分の好みの買い物をお楽しみ頂く機会も持っていました。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍になり、面会自体も制約される中ご家族からの電話での会話、親しい方への手紙の支援なども行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の作り自体、木材を多用し、明るく温かな雰囲気づくりを行っています。常に清潔を維持し、換気を含め、空気の入替えには感染防止の意味も含め時間を取り組み、清々しい中にゆっくり過ごして頂ける様に心掛けています。また、季節を感じて頂くために、掲示物作成にも力を入れています	食堂・リビングは車いすの移動や利用者間の関係性などに配慮して、テーブルと席を配置している。共有空間は、加湿器・高性能空気清浄器を設置し、室温調整に努めている。手作りの干支の寅・立体折り紙・パッチワークや利用者や職員の協同作品を飾り、何時も人を感じられる家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ご入居者の性格や、生活歴などを考慮し、席次を決め、会話の機会の提供に工夫をしています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に衛生面には十分に配慮し、馴染の物、ご家族の写真など、本人にとって癒しの源となるようなものを中心に部屋のレイアウトの手伝いを行っています。	室内には手作りの小物や目覚まし時計・拡大鏡・ラジカセ・筆談用のボードや愛用の化粧品とカレンダーなどが持ち込まれている。自宅でのこれまでの暮らしを継続し、安心して過ごせるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各廊下、トイレ、浴室など手摺りを設置すると共に、その方のADLに応じた、福祉用具の選択、それぞれに必要な支援などを通し、残存能力維持、安全で自立した生活の提供に心掛けています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
			○	② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「地域とともに、地域の為に」 事業所理念「常に感謝の気持ちを忘れずに楽しく支えあい、一歩前進を目指します」の理念の元、地域行事への積極参加、日頃からの挨拶の励行など行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この2年については、コロナ渦にあり、数回の清掃活動を除き、地域との交流の機会も殆どありませんでしたが、例年地域のお祭り、また事業所主催の夏祭り、その他行事への招待など交流を深めるようにしています。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの介護についての相談、問い合わせを受け、認知症についての説明、各介護サービス内容、関連機関への紹介などを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実質の推進会議の開催ができませんでしたが、事業報告書持参時などの際に当地区の直近の高齢者状況、問題点などについて情報を収集し、近隣に身近な存在を感じて頂けるように努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営について不明の点がある場合、即、介護保険課へ連絡し、お尋ねすることでの確かな事業所運営に努めています。その他日頃より包括支援センター等へ伺い、空将状況を中心に現状報告すると共に連携に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員自ら入居者への対応の在り方について、人権への意識を持ち、身体拘束、虐待など絶対に行わない方針で日々ケアに取り組んでいます。さらにミーティング、ヒヤリハット報告、その他勉強会の場で常に自らを見返り、事業所全体でその意識を深めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に、虐待についても同様に研修などを通し、常に見返り、互いに声を掛け合いながら対応をしています。また常に職員自体の精神、身体面に配慮し、残業を極力なくし、精神面で安定して支援ができるように心掛けています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権を尊重する意識を常に持てるように、日頃から、「本人主体のケア」という事を考えて支援するようにミーティングを通し見返り確認しあっています。さらに本人の為に常により細やかな支援の在り方の制度などについても勉強会を通して、学ぶ機会を作っています。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、本人だけでなく、ご家族も安心して頂けるように、内容について丁寧な説明を心掛け、納得してご利用頂ける様になっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会、入居料支払いの折にご本人の様子をお伝えすると共にご家族からのご希望等について意見を伺う様にしています。外部の方へは、主に運営推進会議、事業所便り等を通して事業所の現状（業績、ヒヤリハット・事故・行事等）報告しています		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は必ず、ミーティングを行い、通達徹底事項等連絡、勉強会を始め、施設内の諸問題、職員からの提案を受ける機会を設け、日々の業務反映できるようにしています。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、またその都度の職員との面談を通し、各スタッフの状況を把握すると共に業務、職場環境に対しての具体的な思い、問題点についてざっくばらんに出してもらい、業務改善、働き方の改善に努めています		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	常に新しい戦力としての人材確保に努めていますが、状況は厳しく、就業の意欲があれば最優先しています。 当事業所で心掛けている事として、チームケアを意識し、スタッフお互いが個々の良い点を認め、その違った個性を一つにしてのチーム作りをしています。 (よかとこBOX)		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月開催のミーティングの際、各課題を設け勉強会を行っており、特に人権尊重については、身体拘束、虐待にもつながりかねない基本的な守るべきものとして全スタッフが認識を重ねています。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度、法人のキャリア段位制度を活かし、現在を支える人材、次を担える人材育成に努めています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現実的には、このところのコロナの影響もあり、他事業所などとの交流は控えざるを得ない状況が続いていますが、現時点で3月よりグループ内人材交流が予定されています。例年では、グループホーム部会、地域の小部会など話し合いへ参加を地域連携の交流を行っています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	具体的に入居が近づいた段階で、ユニットリーダー、ケアマネ、管理者でご本人との直接面談を通し、事前に少しでも馴染みの関係作りを努めています。さらに、ご家族からの情報も含め、表出していない思い等の把握に努め、ご利用当初から安心感を持ってもらえる様に努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは、最も気にかかっている点（経済的負担、サービス内容、面会等の有無、今後重度化した場合など）に丁寧に説明、また殆どのご家族が感じる「入所」に対する罪悪感に共感し、入所後も家族の思いを尊重したケアに努める事でその思いを払拭、安心して頂ける様に努めています。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点でのご本人の思い、家族の考えなど話をよく聞かせて頂き、その中から直近の課題を把握し、さらに表出していないそれぞれの思いを拾い集め、ご利用当初から安心感を持ってもらえる様に努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの存在意義でもある共同生活という事を念頭に、ご本人の生活歴をよく把握し、今したいと思う事、出来る事を探し、継続、維持していく事が出来る様に支援しています。（例えば趣味が歌であれば、歌って頂くなど）		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所により、ご家族とご本人との隔たりを出来るだけ感じられない様に、常に面会時、電話、書面などを通じ、小さな事でも報告、相談を行い、ご本人の日頃の生活を豊かにするために連携し支えていく姿勢を示すように取組んでいます。（現在は出来範囲での面会実施）		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会などで、親しい方と接する機会を設け、また状況が許す時は、外出レク等を通し、なじみの場所を身近に感じてもらえる機会を作っています。さらに持参の写真や昔のお話を聞く時間を作り、豊かな思い出、記憶の引き出しも努めています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの個性を尊重し、出来るだけ幅広く交流出来る様に配慮を行っています。（同郷の方、同じ趣味の方、話好きの方などの席次に配慮）		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中培ったご本人、ご家族との信頼関係の下、何か不安、相談などがある場合は、喜んで対応させて頂いている。入院等により退所、重度化され、今後の行先などについての相談に乗らせて頂いています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が可能な方へは、しっかりとご本人の意向を伺い出来るだけその思いに沿ったプランの設定に心掛けています。困難な方について、ご家族や近い方々のお話しの中に思いを拾いプランに活かせるようにしています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を把握、ご家族、面会の方等の話の中からその方のこれまでの姿を想像出来るものを拾い集めプランに活かす様に努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身共に日々の変化の中に、出来なくなった事、まだ出来る事を観察し、出来ない思う事でもと決めつける事無く、時には行ってみてもらう事で、少しでも出来る事探しで、残存能力、可能性の幅を広げる様に対応しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者お一人お一人に担当を付け、その担当を中心により個人あったケア、生活を送って頂ける様に立案、カンファなどで、説明し、他職員の多くの目線での意見を集約、計画作りに活かしています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、報告で新たな視点でのケアの在り方を見出す機会とすると共に、行ってきたケアの見返り、情報の周知徹底の為に活かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍となり、面会もままならない状況の中ですが、毎月のご請求書と共に御本人の様子を簡単に書いたお便り、写真、そして現在iPadのFaceTimeを利用し。関東など遠隔地との対面の機会作りを行っております。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の元気の源である食材は、地域の3つの業者の毎日の配達により、また健康面はかかりつけ医の協力によって、保たれています。また、郵便は家族、時には自分の様子を伝える便りは大切なツールとして、大きな役目です。時折、地域の方からの声かけに笑顔もあり生活のハリにもなっています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に健康管理には力を入れ、かかりつけ医療機関への受診、訪問診療の際、何でも相談できるような関係作りに務め、ご本人の状態について詳細報告し、異常の早期発見、より安心して日々過ごせるように対応を行っています。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職自身も常に健康管理の意識を持ち、いつもと違う様子があれば、すぐに看護師へ報告相談し、異常の早期発見、さらに早めの判断で医療へつなげる事で健康維持に努めています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より、ソーシャルワーカーとの情報交換を行っており、2週間に1度の施設間ミーティングに参加し、入院中の状態について把握する機会を作っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化した場合の対応について、丁寧に説明し同意を得る様にしています。さらに重度化により、入院退所とならざるを得ない場合についても、できる情報の提供を含め次サービスへのスムーズな移行が出来るように協力を行っています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に病状についての知識について看護師を中心に学び、観察力を磨き、また緊急時の初期対応について、マニュアルを基に勉強会などで繰り返し確認すると共に、事例をもとに検証し、万が一に備えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨今の災害多発の状況を考え、日頃より災害時の対応について、マニュアルに添い、学ぶ機会を持ち、防災研修、避難訓練を実施しています。また、地域の行事に参加しながら、交流を深めると共に、万が一の時の協力をお願い出来る関係作りに取り組んでいます。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の人権、プライバシー保護について、勉強会などを通し、認識を新たにしながら、ご入居者への尊敬の念を忘れず、一人一人の思いを尊重しながら対応を行う様に心掛けています。またトイレ、入浴等の場面では特にプライバシーに配慮して対応を行っています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に意向について問いかける様な声かけを行う様に申し合わせています。出来る、出来ないは問わず、否定せず一度は受け入れ、話をしながら少しでも意思に沿った決定が出来る様に努めています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に生活の場であることを意識し、自宅であれば、それぞれの様な暮らしぶりであるかを想像しながら、出来るだけご本人にあったペースでの支援の提供を心掛けています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの意向に沿い、お化粧の時間、またその日の服装など、出来るだけご本人の選択の機会を設けるようにしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番のお楽しみであるであろう、食事は、検食を重ね、美味しく、食べやすい食事の提供に努めています。またコロナの前までは、お茶をついで頂く等して頂いていましたが、最近はタオルたたみ、包帯たたみ等のお手伝いをして頂いています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に食事摂取状態を職員間で把握し、食形態、摂取状況に応じて、声掛け促し、介助など支援を行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2回の口腔ケアの促し、義歯洗浄など実施を行い、常に口腔内が衛生的に保たれる様に支援をしています。日頃より痛み、臭いを観察、訪問歯科医へ報告し、健康維持を図っています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送り、ミーティング、カンファレンスなどを通し、各ご入居者の排泄パターンの把握、情報共有に努めると共に、それを基に、出来るだけ、トイレでの自然排泄が継続出来る様に努めています。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご入居者の身体状況に応じて、食事形態を考慮し、水分摂取の促し、排泄時の腹部マッサージ、日中の運動を行っています。また、排泄間隔によっては、主治医の助言をもとに、服薬等による排泄を促し、支障が無い様に取組んでいます。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴によって、爽やかな気分を味わっていただくと共に、清潔保持の為、その日の状況に応じて入浴を実施する事もあります。また、時間的にもバイタルなど体調を見ながら実施、無理のない様に心掛けています。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃より、一人ひとりの生活リズム、体調の日変化を把握し、昼食後、夕方の臥床時間を提供しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常日頃から、看護師を中心に、体調の変化には注視しており、特に服薬により少しでも変化がある場合には、看護師へ報告すると共に、早め早めに医療につなげ、主治医と相談の上対応する様にしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご入居者の生活歴を基に、レクリエーション内においていろいろと取組んでもらう中、興味のある事、楽しみ、今出来る事などを探りながらやりがいに繋げられる様にしています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この2年ほどは、コロナの関係で実際には、外出を控えています。しかし状況を見ながら、少人数でのドライブで車中からの花見学など行い、少しでも季節感を感じ、リフレッシュしてもら得る様に取り組んでいます。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	このところは、コロナの影響により、買い物外出も出来ていませんが、感染拡大以前は、ドライブ合わせ、買い物レクを実施、ご自分の好みの買い物をお楽しみ頂く機会も持っていました。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍になり、面会自体も制約される中ご家族からの電話での会話、親しい方への手紙の支援なども行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の作り自体、木材を多用し、明るく温かな雰囲気づくりを行っています。常に清潔を維持し、換気を含め、空気の入替えには感染防止の意味も含め時間で取り組み、清々しい中にゆっくり過ごして頂ける様に心掛けています。また、季節を感じて頂くために、掲示物作成にも力を入れています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ご入居者の性格や、生活歴などを考慮し、席次を決め、会話の機会の提供に工夫をしています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に衛生面には十分に配慮し、馴染の物、ご家族の写真など、本人にとって癒しの源となるようなものを中心に部屋のレイアウトの手伝いを行っています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各廊下、トイレ、浴室など手摺りを設置すると共に、その方のADLに応じた、福祉用具の選択、それぞれに必要な支援などを通し、残存能力維持、安全で自立した生活の提供に心掛けています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
			○	②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		